

レベル 1/72 双発機シリーズ

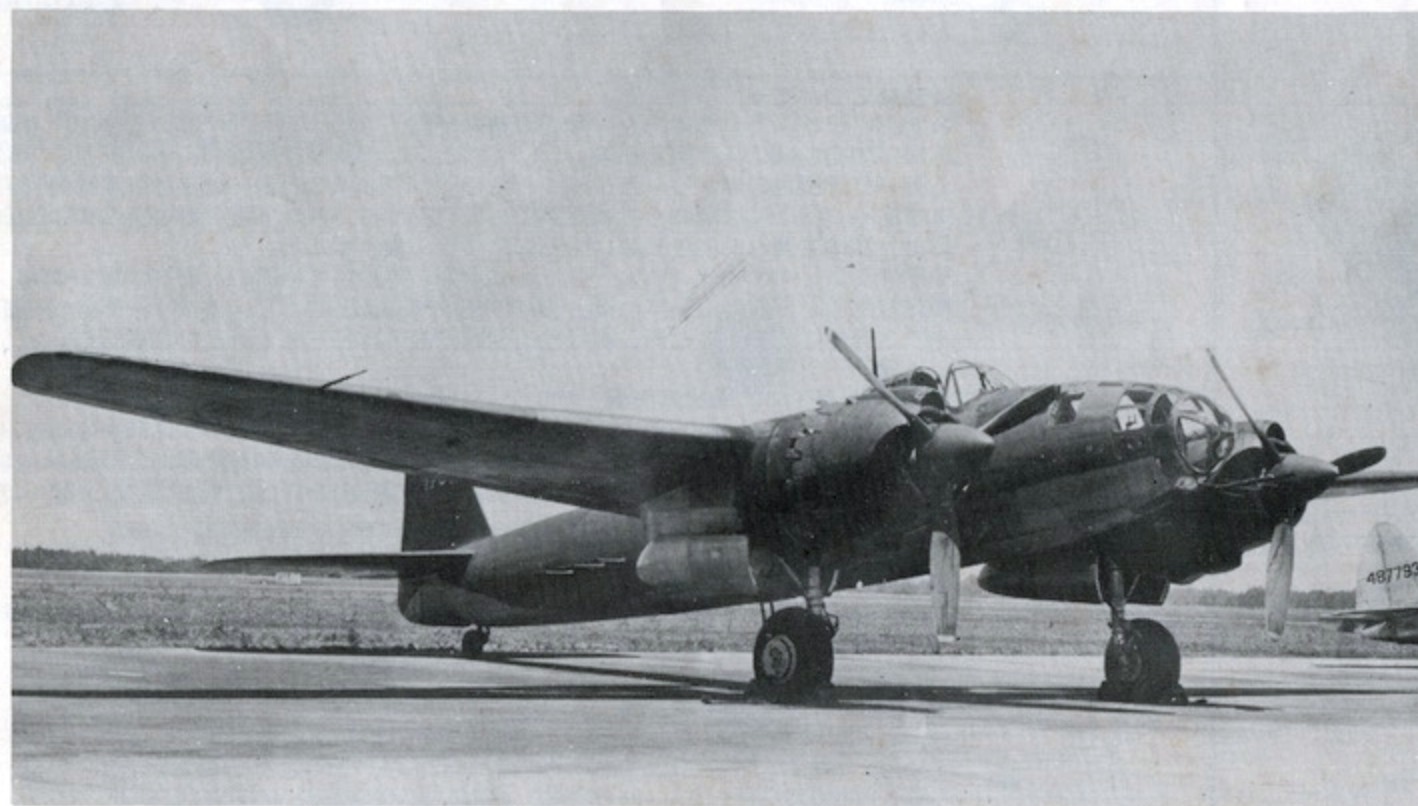
空技廠 陸上爆撃機

銀

河

11/16型

H-103 1/32スケール



(解説)

昭和15年、日本海軍は高速の陸上爆撃機の製作を計画、当時海軍航空技術が集中されていた空技廠において山名正夫技師を設計主務者として設計が開始され、空技廠の実計番号Y-20の名称で試作が開始された。

計画は雷撃、水平爆撃、急降下爆撃の3つの任務が可能である高速機であることが要求され、15試双発陸上爆撃機(PIY-1)と呼ばれる第1号機が昭和18年に完成。

昭和19年10月になって「銀河」11型(PIY1)として制式採用が決定、中島飛行機で生産が開始された。スマートで細長い胴体をもつ銀河は防禦より性能に重点がおかれ、譽発動機の好調とともに高性能を発揮したが、生産性を無視したような複雑な機構になやまされて量産のピッチが上らず、目づ整備の困難さや、搭乗員の質の低下などで実戦における稼働率はあまりかんばしくなかった。

性能的には傑作機といわれる機体であったが、戦況記録としては昭和19年夏のマリアナ海戦頃から実戦での使用が開始され、昭和20年3月梓攻撃隊による鹿屋基地——カロリン群島ウルシー環礁間2,500kmにおよぶ長距離渡洋奇襲攻撃が銀河のもっとも花々しい作戦行動であった。この作戦には銀河24機が参加して敵機動部隊に攻撃くわえる目的であったが、うち9機が発動機の故障で不時着、残りの機体も夜間攻撃となってしまうと目標が発見できず、空母1隻に大破をあたえる戦果にとどまった。

海軍はB-29の夜間爆撃に対抗するため、本機に目をつけ、昭和19年6月に仮称「銀河」21型(PIY1-S)という夜間戦闘機型1機を「銀河」の陸爆型採用前に試作していたが、昭和19年後半から、発動機を火星25型に換装した(PIY2-S)「極光」夜間戦闘機を本土決戦機として川西で生産を開始、約97機が作られたが実際にB-29迎撃に出撃してみると上昇力不足で実用性がとぼしく、再び陸爆型に改装されたものが銀河16型(PIY2)として使用された。

傑作機といえる優秀な設計の機体でありながら、戦局の悪化のため、すべてのものの質の劣化により、フルにその性能を発揮することができずに終わった機体といえる。

★銀河の各型★

★銀河11型(PIY1)

原型機は尾輪引込式、のち固定式となる、発動機は譽11型または12型を装備。

★銀河11型甲(PIY1a)

11型の後方旋回機銃を13mmとした機体。

★銀河11型乙(PIY1b)

後方旋回機銃を13mm連装動力銃座とした機体。

★銀河11型丙(PIY1c)

11型乙の前方機銃を13mmにし、レーダーを装備、発動機を譽12型にした機体。

★銀河12型(PIY4)

11型の発動機を譽23型に換装した機体。

★銀河14型(PIY5)

11型の発動機を/43-11型に換装した機体。

★銀河16型(PIY2)

11型の発動機を火星25型に換装、尾輪を引込式にした機体。

★銀河17型(PIY6)

16型の発動機を火星25丙型に換装した機体。

★銀河33型(PIY3)

胴体が太くなり、翼幅を2m増し、乗員4名、並列座席とし爆弾搭載量を増した機体。(計画のみ)

★銀河21型(PIY1-S)

譽21型発動機を装備、20mm×2の斜砲付、13mm旋回銃を装備。(1機試作)

★極光(PIY2-S)

火星25型発動機を装備、20mm×2の斜砲をつけ、機首に20mm旋回銃1門を装備、尾輪引込式とした機体。(レーダーアンテナ付とアンテナなしの機体がある)

★銀河16型甲(PIY2a)

11型甲の発動機を火星25丙型に換装し機体。

★銀河16型乙(PIY2b)

11型乙の発動機を火星25丙型に換装した機体。

★銀河16型丙(PIY2c)

11型丙の発動機を火星25丙型に換装した機体。

(銀河11型PIY1) テータ

全幅20.050m、全長15.00m、全高4.30m、翼面積55.00m²、自重7,265kg、全備重量10,500kg～13,500kg、発動機・中島(譽)12型、空冷18気筒(1,670HP)×2基、最大速度546km/h、巡航速度370km/h、実用上昇限度9,400m、航続距離1,980～5,370km、武装(機首)旋回20mm×1、(後席)旋回13mm×1、爆弾800kg×1または500kg×2、または魚雷×1、乗員3名。

(銀河16型) テータ

寸法は11型と同じ。

自重7,138kg、全備重量10,500kg、発動機・三菱(火星)25型、空冷14気筒(1,540HP)×2基、最大速度523km/h、実用上昇限度9,500m、航続距離1,815km～3,900km、武装は11型と同じ、乗員3名。

(極光PIY2-S)

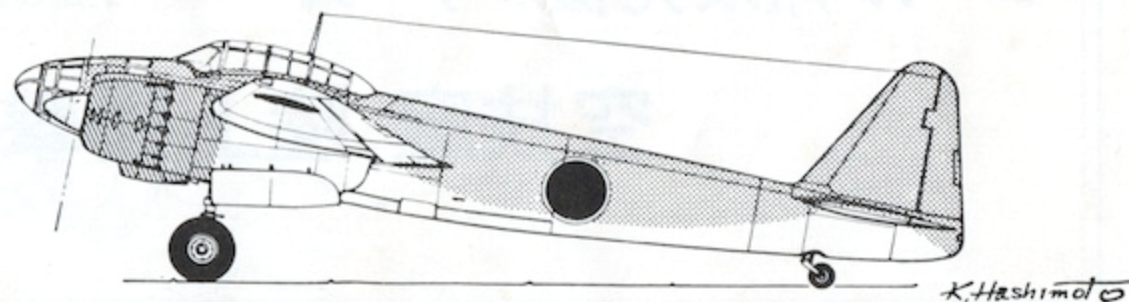
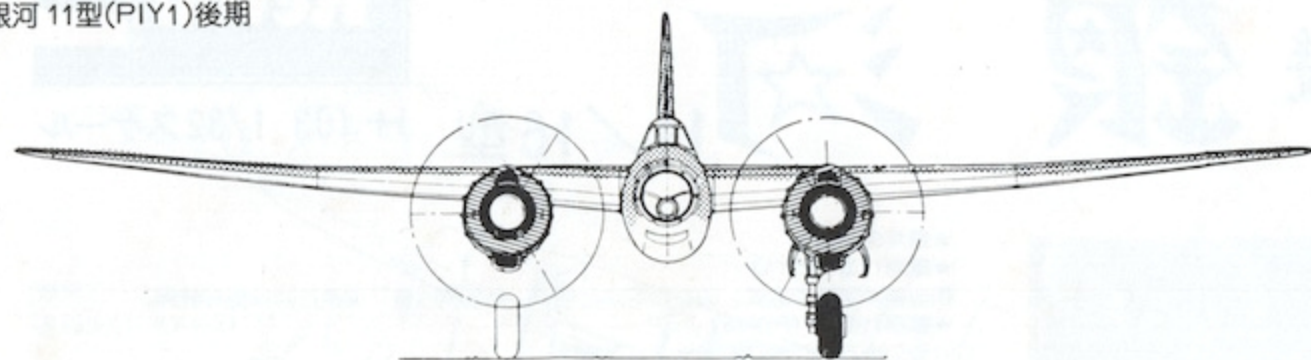
16型と同じで武装、20mm×2斜砲(胴体上方固定)、機首旋回20mm×1、乗員2名。

お 願 い

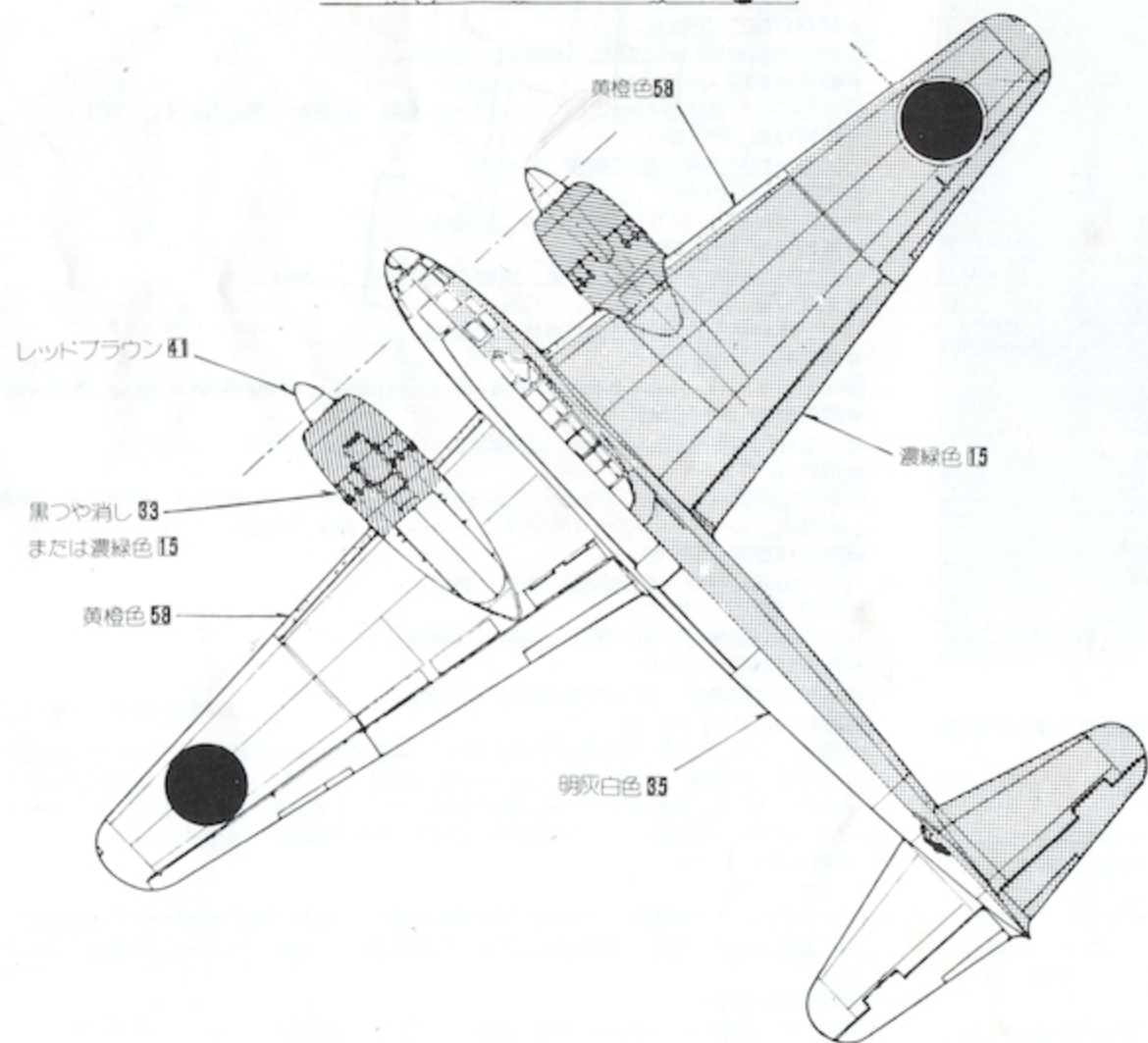
このキットのポリ袋は幼児が不用意にかぶったりしないように始末して下さい。

塗装説明図

銀河11型(PIY1)後期



K. Hashimoto



★塗装について★

4面図に示すように機体の上・側面が濃緑色15、下面是明灰白色35の塗装で、主翼の前縁が黄橙色58の味方識別塗装。プロペラとスピナは暗赤褐色(レッドブラウン41)で先端に黄橙色の線入り。エンジン・カウリングは黒つや消し33または濃緑色15の機体がある。日の丸は胴体と主翼上面のものが白ふちつきや、翼下面は白ふちなしの機体と、胴体主翼とも白ふちなしの日の丸つきの機体がある。その他テスト中の極光(PIY2-S)には全面、黄橙色で機首の上部だけ黒つや消しの機体があり、日の丸は胴体と翼上面だけ白ふちつきとなっているが、一部実戦に使用された機体は16型などと同じ濃緑色と明灰白色の塗装であったと推定される。

(A図)

銀河11型(PIY1)増加試作機

(第3図)に示す(誉)のエンジンを使用、エンジン・カウリングは33を使用し、(第5図のA)のように組立てます。この機体は風防は初期型50を使用、エンジン・カウリングの左右へ2本づつ図のように排気管を追加(自作)して下さい。レーダーアンテナとループアンテナは使用しません。

(B図)

銀河11型甲(PIY1a)初期型

(第3図)に示す(誉12型)のエンジンを使用、エンジン・カウリングは33を使用し、(第5図のA)のように組立てます。風防は50を使用します。

(C図)

銀河11型甲(PIY1a)後期型

B図と同じ(誉12型)のエンジンを使用、風防は51の後期型を使用し、レーダーアンテナは、11型内(PIY1C)に作る時に取付ますが、その他の型も後期にはレーダーアンテナを付けた機体がありますから、好みによって使用して下さい。

(D図)

銀河16型(PIY2)と極光(PIY2-S)

銀河16型と極光は基本的に同じですが、極光は20mm斜砲を装備していますから、下の図のように胴体の上・左右へ銃口をつけて下さい。エンジンは(第3図のB)に示す(火星25型)を使用、エンジン・カウリングは36を使用して(第5図のB)のように組立てます。ループアンテナは使用しません。

尾輪カバー68と69は図の位置へ接着、両機ともレーダーアンテナを付け、極光に作る場合は増槽は使用しません。風防は両機とも50の初期型を使用して下さい。

(E図)

第761航空隊所属機(銀河11型)

(F図)

第521航空隊所属機(銀河11型)

(G図)

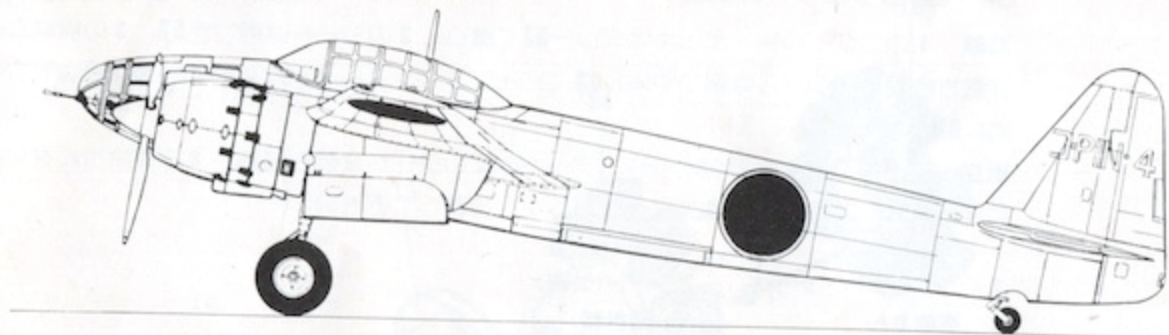
機首の塗装(11型初期と16型および極光)

図のように上面を濃緑色15、下面是明灰白色35に塗ります。

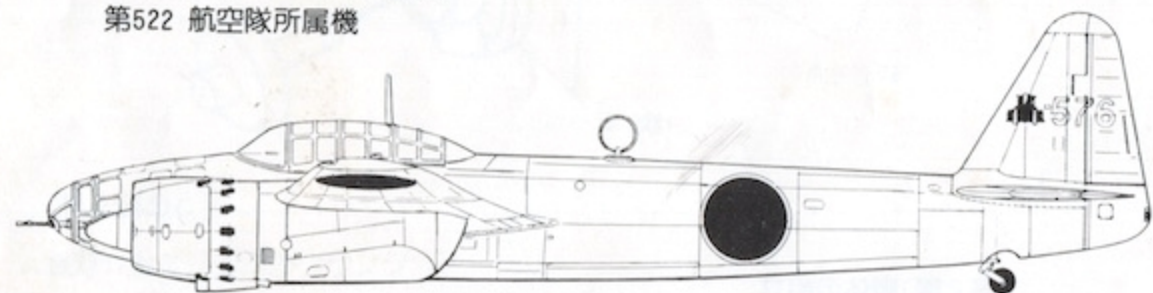
(H図)

横須賀航空隊所属機(極光PIY2-S)

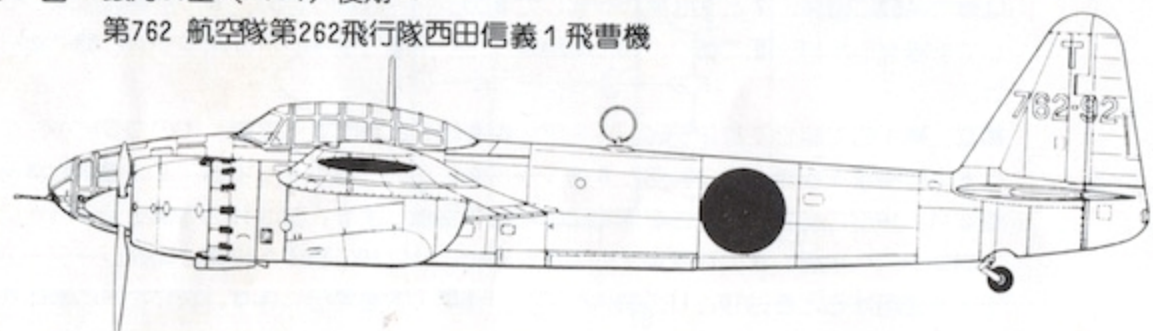
A 図 銀河11型 (PIY1) 増加試作機



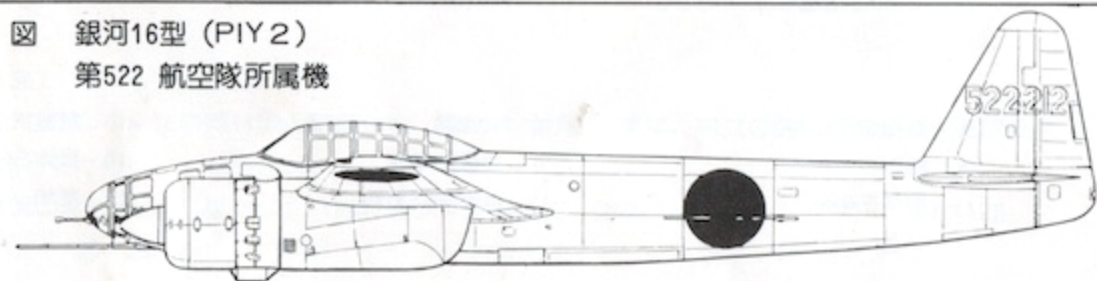
B 図 銀河11型甲 (PIY1a) 初期
第522 航空隊所属機



C 図 銀河11型 (PIY1) 後期
第762 航空隊第262飛行隊西田信義1 飛曹機

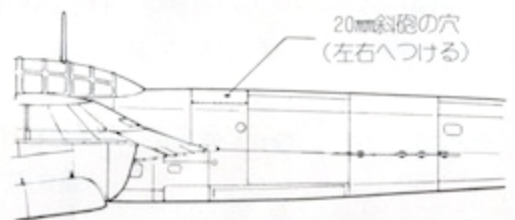


D 図 銀河16型 (PIY2)
第522 航空隊所属機



極光 (PI2-S)

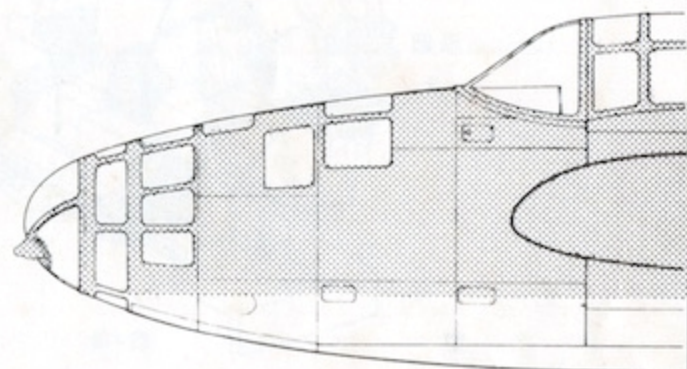
④ 機体は16型と同じ



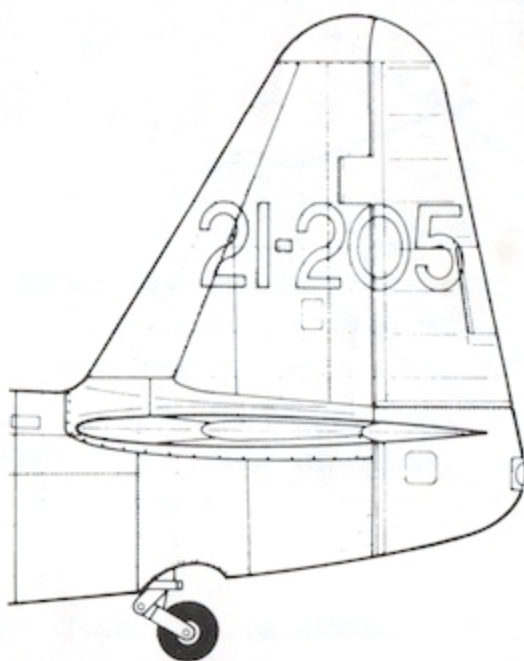
E 図 第761航空隊所属機
銀河11型



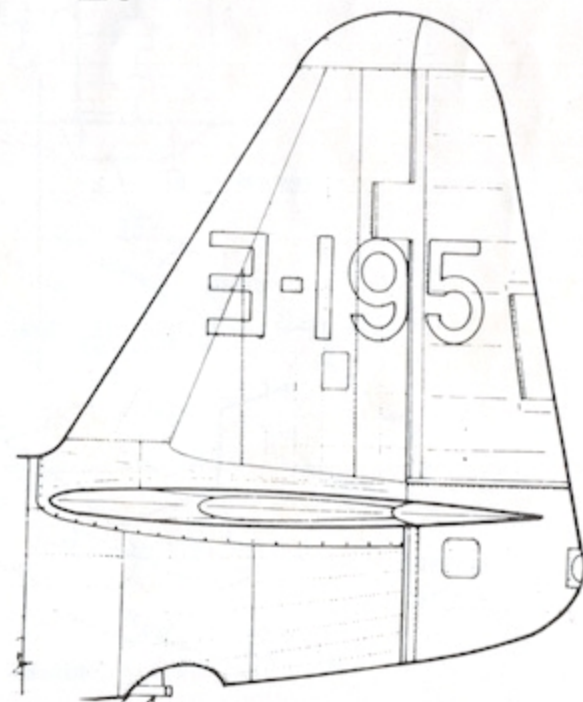
G 図 機首の塗装



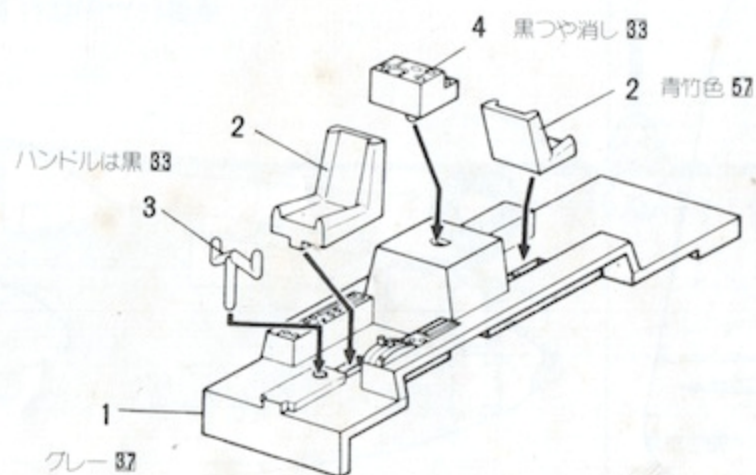
F 図 第521航空隊所属機
銀河11型



H 図 横須賀航空隊所属機
極光PIY2-S



① コクピットの組立



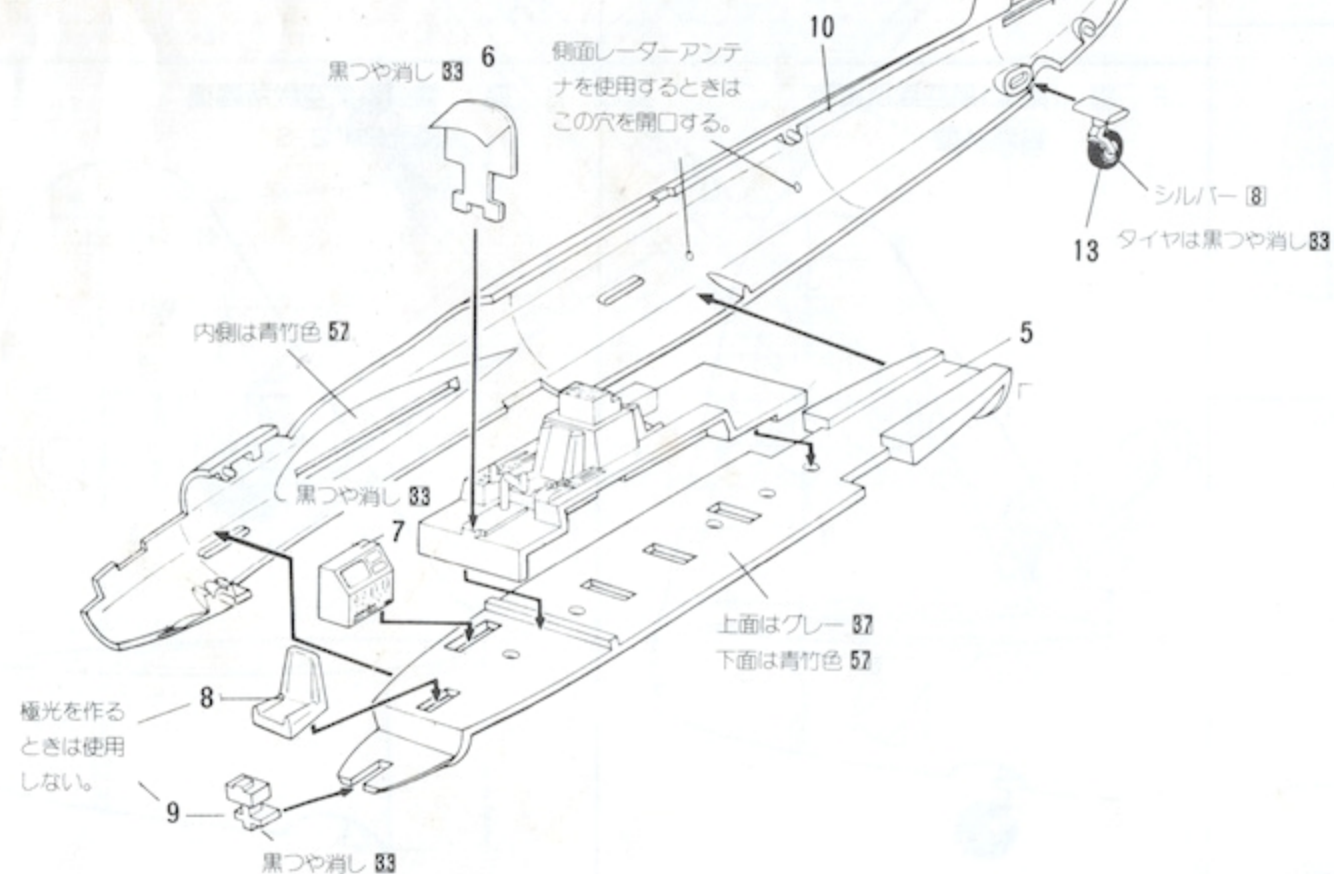
(第1図)コクピットの組立

塗装 1のコクピット・デッキはグレー37で塗り、2のシートは青竹色57、3の操縦かんは青竹色57でハンドルは黒つや消し33、コクピットのレバー、パネルと4の通信器は黒つや消し33に塗ります。

組立 図のように1のコクピット・デッキへ2のシート2個を接着、3の操縦かんを矢印の穴へ接着、4の通信器を矢印のとおり1へ接着して下さい。

- | | |
|-------------|-----------|
| 1 コクピット・デッキ | 2 シート(2個) |
| 3 操縦かん | 4 通信器 |

② 胴体の組立



(第2図)胴体の組立

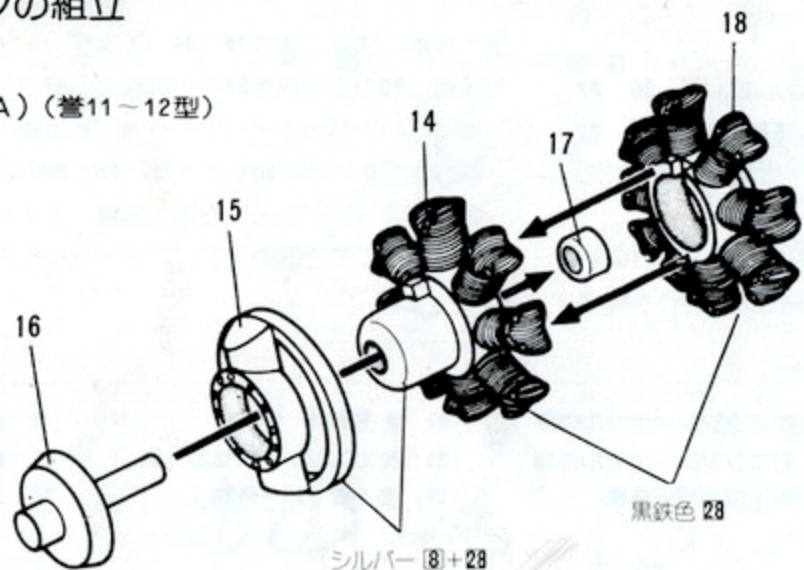
塗装 10と11の胴体は内側を青竹色57で塗り、5の爆弾倉デッキは上面をグレー37、下面は青竹色57に塗装、7と9は黒つや消しで8のシートは青竹色57、6の計器盤は黒つや消して計器をシルバー8で塗り、13の尾輪はシルバー8でタイヤだけ黒つや消し33に塗ります。

組立 第1図で組立てたコクピット・デッキを図のように5へ接着、1のコクピットの前へ6の計器盤を接着、7の計器と8のシートを矢印のとおり5へ接着、9の爆撃照準器は銀河11と16型に組立てるときだけ矢印の位置へ接着します。次は13の尾輪を図の向きにして胴体の穴へ接着、5の弾薬倉デッキを矢印のように10の胴体へ接着。(側面レーダーアンテナを使用するときは10と11の胴体へアンテナ用の穴を開口します。)次に左右の胴体を接合し完全に接着して下さい。

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| 5 爆弾倉デッキ | 6 計器盤 | 7 計器ボックス |
| 8 前部シート | 9 爆撃照準器 | 10 胴体右半分 |
| 11 胴体左半分 | 12 後部施回機銃 | 13 尾輪 |

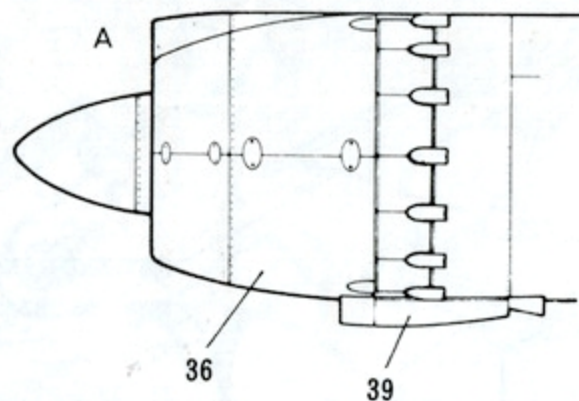
③ エンジンの組立

(第3図のA) (蒼11~12型)

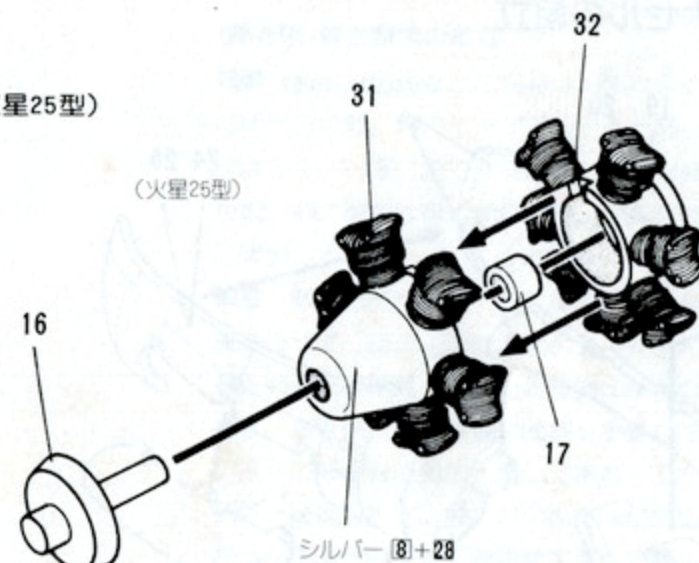


(第3図のC)

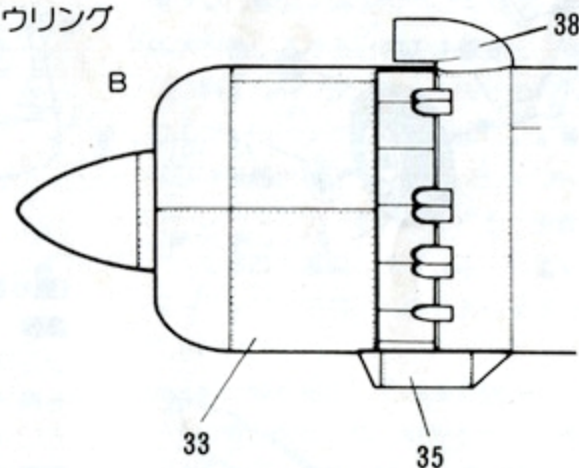
A 銀河11型エンジンカウリング



(第3図のB) (火星25型)



B 銀河16型, 極光エンジンカウリング



(第3図) エンジンの組立

(注) このキットは銀河11型と銀河16型、極光などが作れます。組立の前にどの型に仕上げるかを決定してから組立ててください。

(第3図のA) 銀河11型(蒼11~12型)エンジンの組立 塗装 14と18のエンジンは黒鉄色28、15はシルバー⑧+28。16のプロペラ・シャフトは円盤だけレッドブラウン41に塗ります。

組立 15を14のエンジンへ接着、16のシャフトを14へ差込んで17のシャフト・キャップを16のシャフトへ接着、14と18のエンジンを矢印のように接合、同じようにして2個のエンジンを作ります。

(第3図のB) 銀河16型と極光の(火星25型)エンジンの組立 塗装 31と32のエンジンは黒鉄色28で31のエンジン中央部はシルバー⑧+28に塗ります。

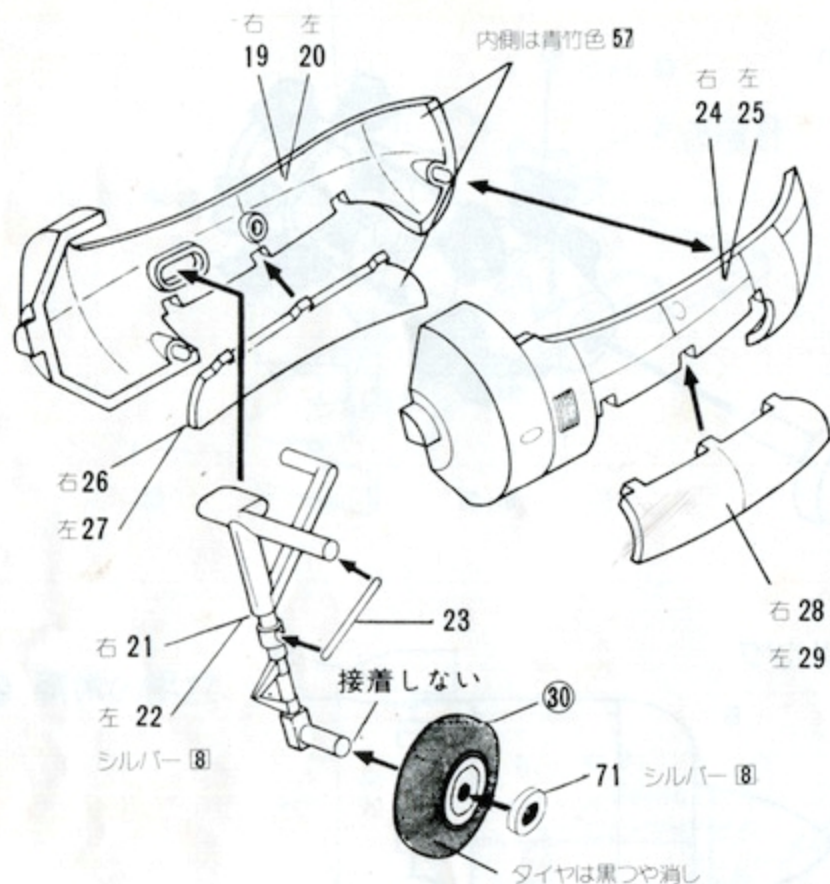
組立 図のように16のプロペラ・シャフトを31のエンジンへ差込み、17のシャフト・キャップを16のシャフトへ接着、31と32を接合します。このようにして2個のエンジンを組立てます。

(第3図のC) 図A は銀河11型のエンジン・カウリングです。

図B 銀河16型と極光用のエンジン・カウリングです。組み立ては第5図を参照して下さい。

- 14 (蒼)発動機前シリンダー 15 (蒼)発動機前部 16 プロペラ・シャフト(2個) 17 プロペラ・シャフトキャップ(2個) 18 (蒼)発動機後シリンダー 31 (火星)発動機前シリンダー
32 (火星)発動機後シリンダー 33 (蒼)発動機カウリング(2個)

④ エンジン・ナセルの組立



(第4図)エンジン・ナセルの組立

塗装 19、20と24、25のエンジン・ナセルおよび、26、27と28、29の主車輪カバーの内側を青竹色57で塗り、21、22と23の主脚柱はシルバー⑧、71のホイールキャップはシルバー⑧でタイヤを黒つや消し33に塗装します。

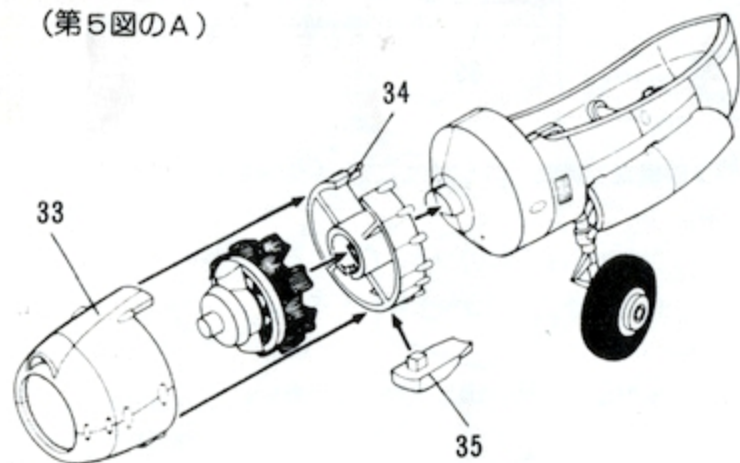
組立 19の右エンジン・ナセル内側へ矢印のように21の右主脚柱をはめ込んで接着、23の支柱を矢印のとおり主脚柱

へ接着します。次は19と24のエンジン・ナセルを合わせて接着、30の主車輪を21の主脚柱のシャフトへ差込んで（接着しない）、71のホイールキャップを車軸にだけ接着して車輪がまわるように組立てます。26と28の主車輪カバーを図のようにエンジン・ナセルへ接着して下さい。同ようにして左側のエンジン・ナセルと主車輪を組立てます。

- | | | | |
|-----------------|----------------|----------------|-------------|
| 19 右エンジン・ナセル内側 | 20 左エンジン・ナセル内側 | 21 右主脚柱 | 22 左主脚柱 |
| 23 主脚支柱(2個) | 24 右エンジン・ナセル外側 | 25 左エンジン・ナセル外側 | 26 右主脚カバー内側 |
| 27 左主脚カバー内側 | 28 右主脚カバー外側 | 29 左主脚カバー外側 | 30 主車輪(2個) |
| 31 ホイールキャップ(2個) | | | |

⑤ 第5図のA

(第5図のA)



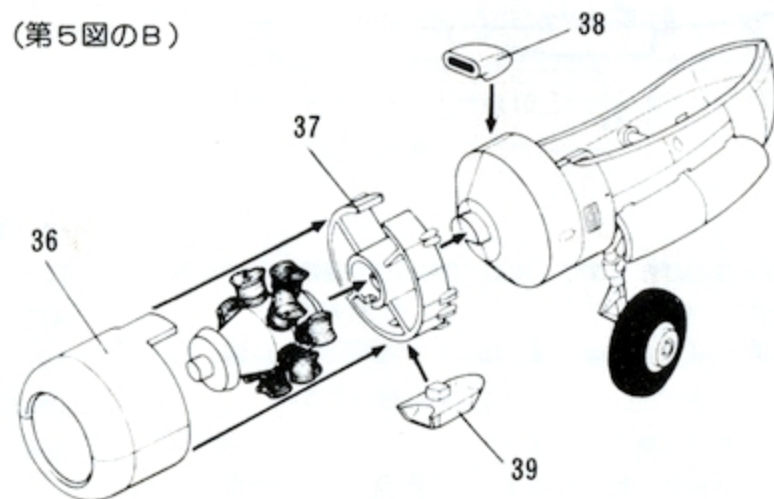
(第5図のA) 銀河11型の組立

塗装 33と34のエンジン・カウリングとカウルフラップは内側を青竹色57で塗り、35の空気取入口は黒つや消し33に塗装、排気管は焼鉄色28+41にします。

組立 第3図で組立てた誉発動機を矢印のように34のカウルフラップへ接着、34をエンジンナセルへ矢印のとおり接着し、35のオイルクーラーを34へ矢印のように接着、33のカウリングをエンジンへはめ込みます。このようにして左右のエンジン・ナセルへエンジンとカウリングをセットしておきます。

- | | | | | |
|-----------------------|----------------------|---------------------|-----------------------|---------------------------|
| 34 (誉)発動機カウルフラップ(2個) | 35 (誉)発動機オイルクーラー(2個) | 36 (火星)発動機カウリング(2個) | 37 (火星)発動機カウルフラップ(2個) | 38 (火星)発動機キャブレター空気取入口(2個) |
| 39 (火星)発動機オイルクーラー(2個) | | | | |

(第5図のB)

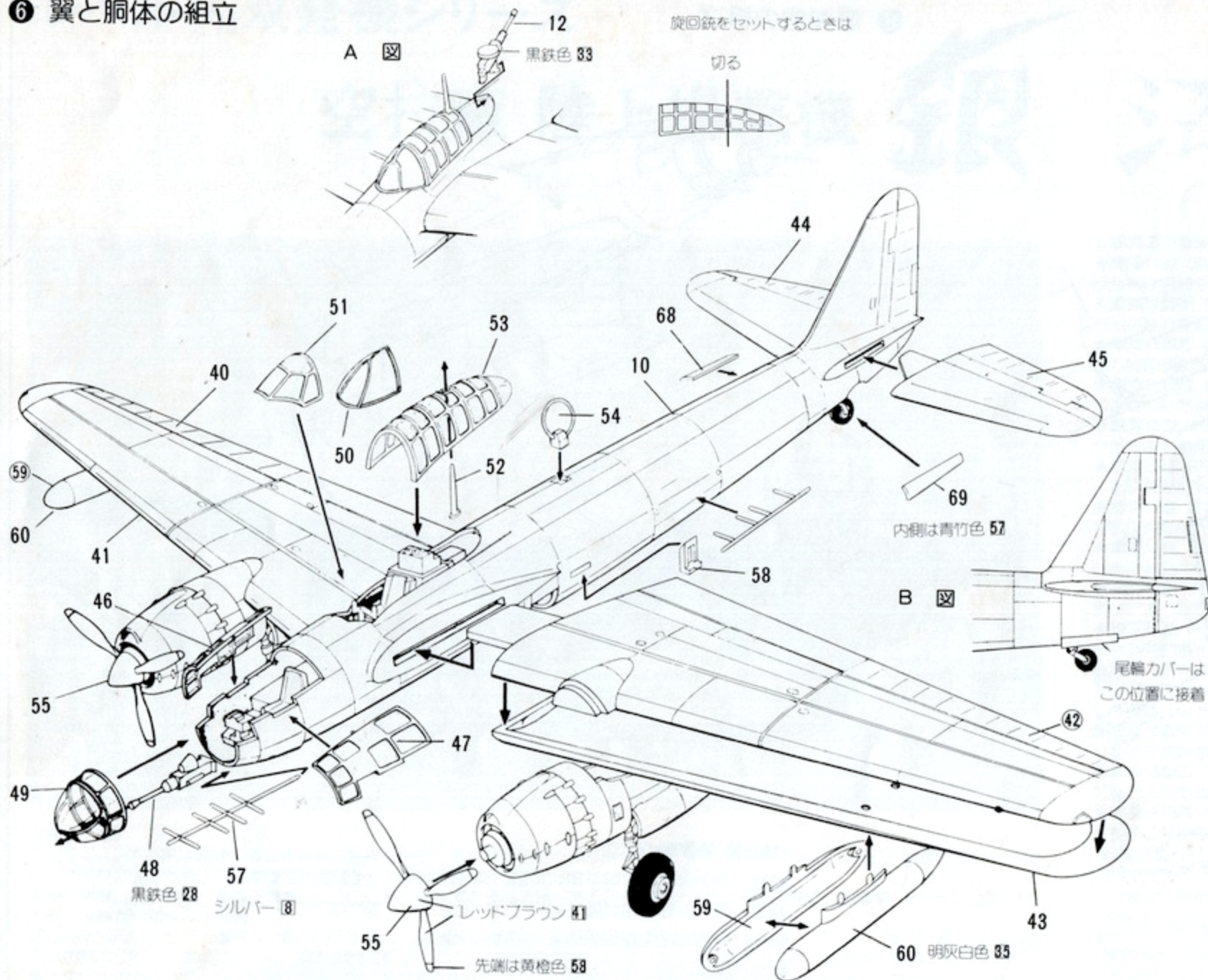


(第5図のB) 銀河16型と極光の組立

塗装 36と37のエンジン・カウリングとカウルフラップは内側を青竹色57に塗り、38と39は空気取入口を黒つや消し33に塗ります。

組立 火星発動機を矢印のように37のカウルフラップへ接着、37をエンジン・ナセルへ接着し38と39の空気取入口をエンジン・ナセルと、カウルフラップへ矢印のように接着、36のエンジン・カウリングをエンジンへはめ込んでおき、同じようにして左右のエンジン・ナセルを仕上げます。

⑥ 翼と胴体の組立



(第6図)翼と胴体の組立

塗装 キャンピーなどの窓枠は機体同色に塗り、59、60の増槽は明灰白色35。54のループアンテナと56、57のレーダーアンテナはシルバー8に塗ります。68、69の尾輪カバーは内側が青竹色57。49の機銃は黒鉄色28、アンテナ柱52はレッドブラウン41に塗装します。

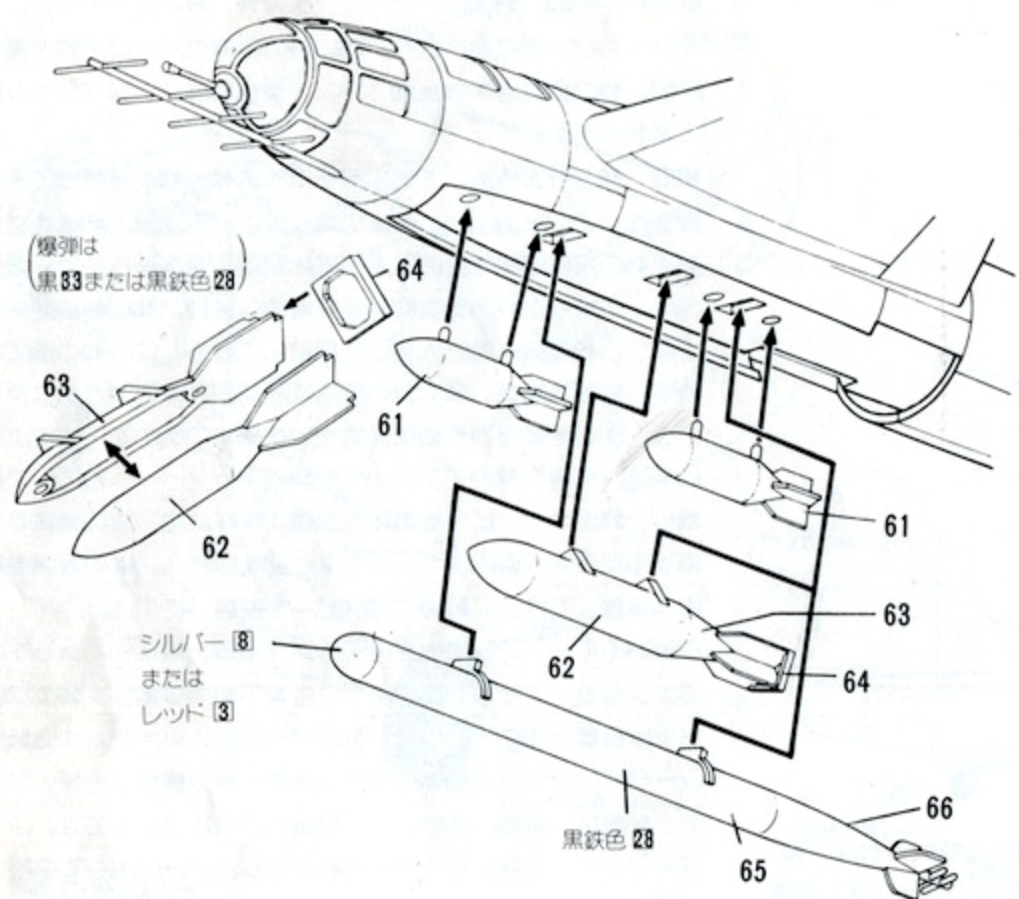
組立 40と41を接合して右主翼を作り、42と43を接合して左主翼を作って、図のように胴体の溝へ差込んで主翼と胴体を接着、44と45の水平尾翼を図のとおり胴体尾部の溝へ差込んで接着します。次は46と47の機首側面窓を機首へ接着、48の機銃を矢印のように49の機首風防へ通して接着してから、この49の風防を機首へ接着します。50、51の風防は前期型と後期型がありますから、別図を参照して機首決定をした機体の風防を矢印のように胴体へ接着、52のアンテナ柱を53のキャンピーへ差込んで接着し、53のキャンピーを胴体へ接着します。(注・旋回機銃を使用するときはA図のようにキャンピーを切断し、12の機銃を胴体へ接着してから、53のキャンピーを接着して下さい。)

次は54のループアンテナを矢印の穴へ接着、組立ててある左右のエンジン・ナセルを図のように主翼下面へ接着し、55のプロペラは接着せずにプロペラ・シャフトへ差込みます。次に56のレーダーアンテナを胴体の左右へ接着、57の機首レーダーアンテナを機首へ接着します。(注・11型では機体によっては、レーダーアンテナのないものもありますから、好みによって使用して下さい。)

次は59と60を接合して増槽2個を作り矢印のように主翼下面の穴へ接着、銀河16型と極光を作るときは68と69の尾輪カバーをB図の位置へ接着、58のステップは好みによって使用して下さい。

- | | | | | | | | | | | |
|----------|--------------|--------------|-----------|-----------|------------|------------------|-------------------|---------------|---------|-----------|
| 10 胴体右半分 | 12 後部旋回機銃 | 40 右主翼上半分 | 41 右主翼下半分 | 42 左主翼上半分 | 43 左主翼下半分 | 44 右水平尾翼 | 45 左水平尾翼 | 46 機首右窓 | 47 機首左窓 | 48 機首旋回機銃 |
| 49 機首風防 | 50 初期型風防 | 51 後期型風防 | 52 アンテナ柱 | 53 キャンピー | 54 ループアンテナ | 55 プロペラとスピナー(2個) | 56 胴体レーダーアンテナ(2個) | 57 機首レーダーアンテナ | | |
| 58 ステップ | 59 増槽半分A(2個) | 60 増槽半分B(2個) | 68 尾輪右カバー | 69 尾輪左カバー | | | | | | |

7 爆弾と魚雷の組立



(第7図)爆弾と魚雷の組立

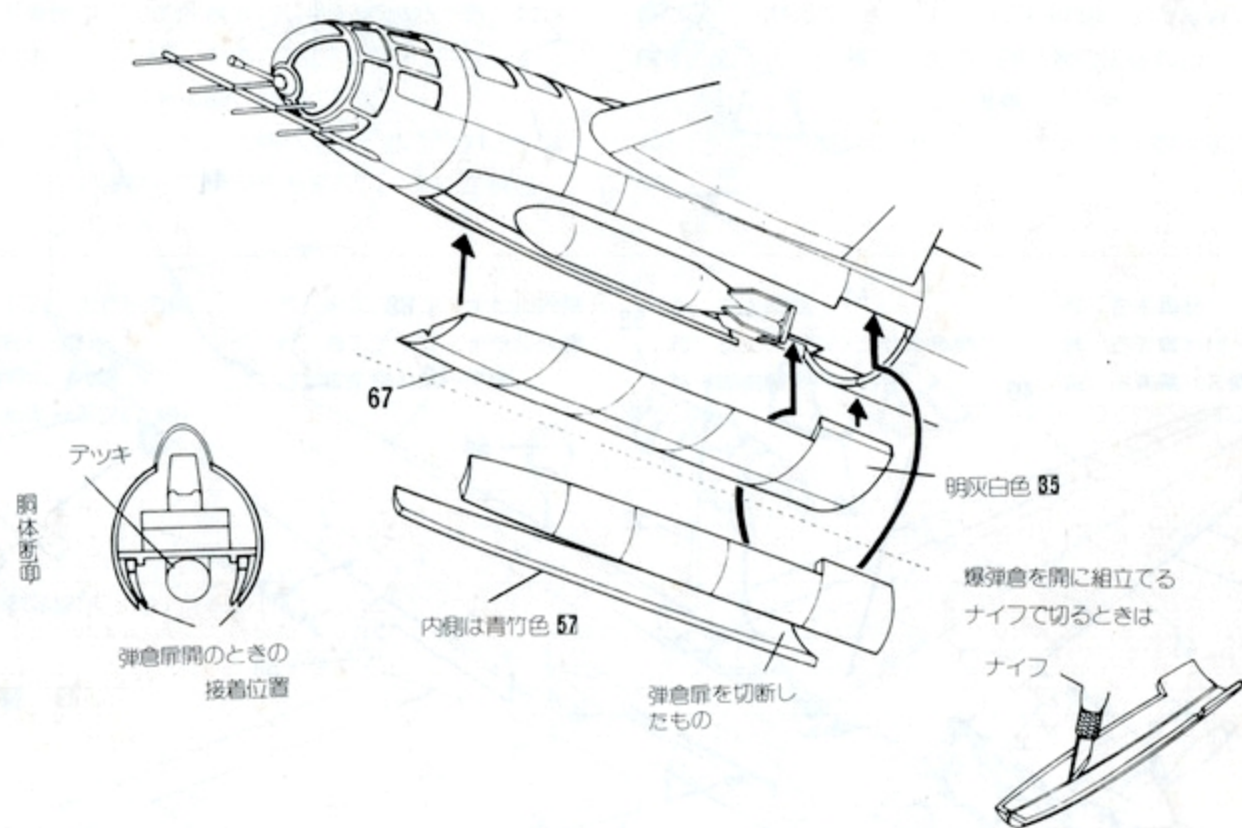
塗装 爆弾は全部黒63または黒鉄色28に塗り、魚雷は黒鉄色28で先端をシルバー8またはレッド3に塗ります。

組立(A図) 62と63を接合して大型爆弾を作り、64を矢印のように爆弾のフィンへ接着します。

(爆弾の装備法) 夜間戦闘機「極光」に作るときは爆弾と魚雷は使用しません。小型爆弾2個を矢印のように爆弾倉へ接着します。大型爆弾使用のときは大型爆弾1個だけを爆弾倉へ接着します。

魚雷使用のときも魚雷だけを爆弾倉へ接着して下さい。

8 爆弾倉の組立



(第8図)爆弾倉の組立

塗装 爆弾倉扉は内側を青竹色57、外側は明灰白色35に塗ります。

組立 爆弾倉扉を開状態に組立てたいときは左の図のように67の溝をナイフで切断し、爆弾倉の内側へ図のように接着します。

爆弾倉扉閉状態に作るときは67の扉を矢印のように胴体へはめ込んで下さい。

これで組立は完了です。塗装とマークの貼りかた説明図を参照して塗装をし、マークを貼って下さい。

61 500kg爆弾(2個) 62 800kg爆弾下半分 63 800kg爆弾上半分 64 800kg爆弾フィン・スティ 66 魚雷下半分 66 魚雷上半分 67 爆弾倉扉